

新任のごあいさつ



国際交流基金日本語国際センター副所長
大塚 善人（おおつか よしひと）

安田文夫前副所長の後任として、昨年11月20日日本語国際センター副所長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

日本語国際センターは、1989年に設立されましたから、今年で9年目になります。この間、外国人日本語教師研修を主な業務として、海外から多くの日本語の先生を招き研修を実施してきました。この『日本語教育通信』の読者の中にもすでにこのセンターに来られた人も多いことと思います。センターでの生活はいかがだったでしょうか。きっと東京近郊浦和市での生活を十分楽しめたことと思います。

語学の勉強というものは、それだけでは味気ない困難な作業です。しかしながら、それにより、友人ができ、その国の歴史や文化を知り、その国の生活を楽しむ中で、段々と面白くなっていくものだと思います。

私もフランスに通算10年住みましたが、最初は、フランス語の勉強に追われ、フランス文化を楽しむ余裕はありま

せんでした。ある程度余裕ができてくると、今度は、両者の文化の違いに随分驚くことも多くありました。その後、長くフランスに住むうちに、文化の外観は大いに違いますが、日本人もフランス人もそんなには違わないと思うようになりました。そして、「お互いそんなに違わない」ということを知ることが結局は国際文化交流という仕事のめざすところなのかな、と今考えています。

また、文化交流の仕事をしてきて一番感じるのは、平和ということの大切さです。世界が平和でなければ、お互いの国・民族の文化を理解することは容易ではありません。第二次大戦後50年の平和のおかげで、各々の文化の相互理解は、少しずつですが、確実に深まっていると思います。日本の文化に関しましても、昔に比べたら、比較にならない程世界の人々に知られて来ましたし、また、私たちは、今まで良く知らなかったインド、インドネシア、タイなどのアジアの文化についても様々な面から知ることができるようになりました。

このような世界の文化交流の大きな流れの中で日本語国際センターも小さな役割ですが、日本語を媒介とした確固たる役割を果たして行きたいと考えています。

世界の日本語教師の研修、教材の開発、情報ネットワークの構築等様々な事業を通じ、また、海外7カ所に設置された海外日本語センター、更には、昨年開設された関西国際センターとも連携して、少しでも海外でご活躍の日本語の先生方のお役に立つべく努力していく所存です。当センターは設立後わずか9年のまだまだ若い未熟な組織です。当センターに対して皆様から御要望・御批判等ご遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

国際交流基金会員募集について

国際交流基金では、国際文化交流事業の一層の発展・普及のため、皆様よりのご支援をお願いしております。

中でも、年会費として一定額のご寄付をお願いする会員になっていただきますと、定期刊行物の送付や図書館のご利用、催しへのご案内など様々な特典がございます。

今年1月より、これまでの「賛助会」に加え、新しく「友の会」が発足しました。「賛助会」(個人一口2万円、団体一口10万円)にご入会の方には、機関誌「国際交流」の定期送付、一部の公演・展覧会・レセプションなどへのご招待等の特典がございます。「友の会」(個人のみ、一般4千円、学生2千円)にご入会の方には、基金の活動を定期的にお知らせする「国際交流基金 NEWS」の定期送付や催しのご案内を通じ、国際交流に関する様々な情報を提供いたします。詳しくは、右記までお問い合わせください。

当基金の様々な活動をご理解いただき、ご支援・ご協力をいただきますよう、多くの皆様のご入会をお待ちしております。

なお、当基金は特定公益増進法人に指定されており、ご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ：国際交流基金経理部資金課

TEL .03 5562 3519 FAX .03 5562 3496

表紙エッセイプロフィール

周防正行(すおうまさゆき)

大学在学中から映画制作に携わり'84年に映画監督としてデビュー。'92年の『シコぶんじゃった』と'96年の『Shall we ダンス?』が大ヒット。特に『Shall we ダンス?』は昨年、全米でも公開され好評を博した。